



電力の地産地消

福島原発事故以来、原発に頼らない、安全で安心のおける風力発電や、太陽光発電等に関心が高まっております。先日茂原市で開かれた全国拠点都市の会合に釜石市の野田市長が参加され、震災後釜石市は「今まで風力発電でおこしていた電力を東北電力に売電していたが、これからは直接利用できるよう特区申請をしているところだ」と話されています。震災後、電力不足の中、自分のところで作った電力なのに自由に使うことが出来なかったのです。

茂原市では、先月このコラムで書いた沢井製薬工場の拡張工事が始まりましたが、その際言われたことの一つに、電力の供給問題がありました。いかにして安定した電力が供給出来るかは、企業誘致にとっても大切なことです。茂原市では、エネルギーとして天然ガスが採掘されており、この天然ガスを使って、ガスタービン発電をおこなないかとガス会社の関係者に尋ねたところ、設備の初期投資に多額の資金が必要なこと、ガスタービンで発電し

たのち、さらにそこから出る蒸気を使って発電しないと採算が取れないこと、また、一度おこした電力を東電に売電しないといけない仕組みになっていることなど、たくさんの課題を指摘されました。

過日、東京都の副知事である猪瀬氏は、テレビ出演し、「東京都は天然ガス発電について積極的に取り組みたい」と語っておられました。おおいに心を惹かれる思いがいたします。ただ、地元の天然ガスが使えるかどうかは、まだいろいろと調べてみなければ分かりません。釜石市のように特区申請し、電力会社を通さず、直接使用できる電力があればどんなに心強いことでしょうか。非常時での電力供給問題も、このことによつて解決されると思います。大変難しい問題ですが、考えてみる価値はあると考えます。

財政再建という大きな壁が立ちふさがっておりますが、電力の地産地消を目指し、前向きにチャレンジしていきたいと思っております。